

生き方サーチ



豊かだけど不安な中で

リセッションを超えて

新年明けましておめでとう
 ございます。昨秋来の世界的な金融経済破綻から立ち直るには至りませんが、ここで嘆き立ちすくんでしまっているだけでは荒波に翻弄されるだけです。こういう時こそ、先を見据えた針路を定めて、生き方やビジネスを考えたいものです。

そういう気持ちで世の中を見回してみると、新たな兆しが見えたりやビジネスの中に見つかるものがあります。先日、今回のリセッション（景気後退）の発端となった舞台、アメリカを訪ねてきました。さぞかし暗い雰囲気が漂っているのだらうと、不安な気持ちも抱いていたのですが、現地で街を歩く人々、食事をする人々、訪問先の人々の表情は、思っていたよりもずっと明るいのです。すでに、その先へと動き始めているかのようです。オバマ次期大統領が準備している、環境関連分野を中心とした思い切った公共投資政策「グリーン・ニューディール」も、前倒しで動き始めている様子でした。

イクル品の購買が、単に「安さ」だけではなく、生活者の「社会的責任」意識の反映としても高まってきていると、調査結果も交えて述べられて

"Re"系社会へ向かって

変化が大きく影響していることを示していると思われるます。そこで、私はオシャレな古着店も多い京都三条界隈のショップを訪ねてみました。外観は、とてもセンスのよいブティックです。まったく中古品のチープなイメージではありません。店内に入ると、そこには服から雑貨まで、きれいにディスプレイされており、セレクトショップのようなこだわりも感じさせる品揃えに驚かされました。写真。ショップのスタッフから話を聞いてみました。案の定、来店者数はかなり増えているようです。性別年齢を問わず、様々な層のお客様がファッションのこだわりを持って品物を選びに来ているそうです。特に大学生が多いようです。店内では何人も大学生男女が楽しそうに商品を選んでいました。彼らは、高度成長期の消費の担い手であった団塊の世代を中心とする現中高年とは、まったく違う「リサイクル商品価値観」を持っているようです。安さよりも、自分が見つけ出した掘り出しもの、ビンテージもの、そういう大量生産の新品からは得られない価値を大事にしています。その上で、環境への責任も無理のない当然の意識としてベースに置いているようです。

さらに、このようなりサイクル商品の流通は、ネット・ショッピングの拡大により、大きく加速されているのも確かです。ヤフーや楽天などを活用して、誰もがセレクトショップのオーナーになれる環境が整っているわけです。このような消費の主役と、消費の価値観の世代交代は、まさに時代の針路を示しているように感じられます。

■新ビジネスの胎動
 その古着屋を出ると、何軒か先に「時計の修理専門店」を見つけました。リベアショップです。白衣を着て、拡大鏡を眼にはめ込んで、時計の修理に集中している数名の職人さんの様子が、通りからも見えます。ショーウィンドーには、国内舶来さまざまな高級時計の修理を受け付ける自信あふれる説明看板がありました。私がのぞいている間に、ショーウィンドーをのぞいたり、店内に入って相談するお客さんがいました。時計は、すでに時間を知るための道具にとどまらず、そ

や、お気に入りのネクタイが、みごとにリフレッシュされ、高い料金にもかかわらず売上げを急速に伸ばしている事実を目の当たりにすることができました。

大きな打撃を受けた自動車業界でも、縮む新車市場の現実を受けとめて、トヨタやホンダなどの大手メーカーも、レンタカー事業や複数の会員が自動車を共有するカー・シェアリング事業に参入し、本格的な事業化へと動き始めています。これらの胎動は、景

そして、「Re」系の発想が見直されているようです。しかし、ここで誤ってはないのが、昔を思い出してノスタルジーに浸っているだけ、または後戻りしようとする「Re」ではなく、舞台替えへのリポリューションのための「Re」こそ針路だということだと思います。今回、カリフォルニアや京都、東京の街を歩き、暮らしの中の「Re」の兆しを次々に見つけながら、私はそれを感じました。また、このような大変化が

■互いに尊敬する心を
 こうして見つけてきた世の中の流れは、どれも「Re」で始まっていることに気づきます。「Re」の意味は「Back」や「Again」に近いものです。大阪大学の田清一総長も著書で指摘されていた、これまでの「Pr」（前のめり）型の世の中の流れは、一つのゴールを迎えたのではないのでしょうか。

本格的に始まる中では、様々な混乱も生じるでしょう。これを乗りきるために私たちに必要となることも、やはり「Re」ではないかと感じています。それは、私たちが互いに「リスペクト（尊敬）」する心を持って関わり合うということだと思います。「Re」系人間による、「Re」系社会は、なかなか捨てたものではない。そんな未来であるような気がしませんか。

（オムロン・ヒューマンルネッサンス研究所 中間真一）

